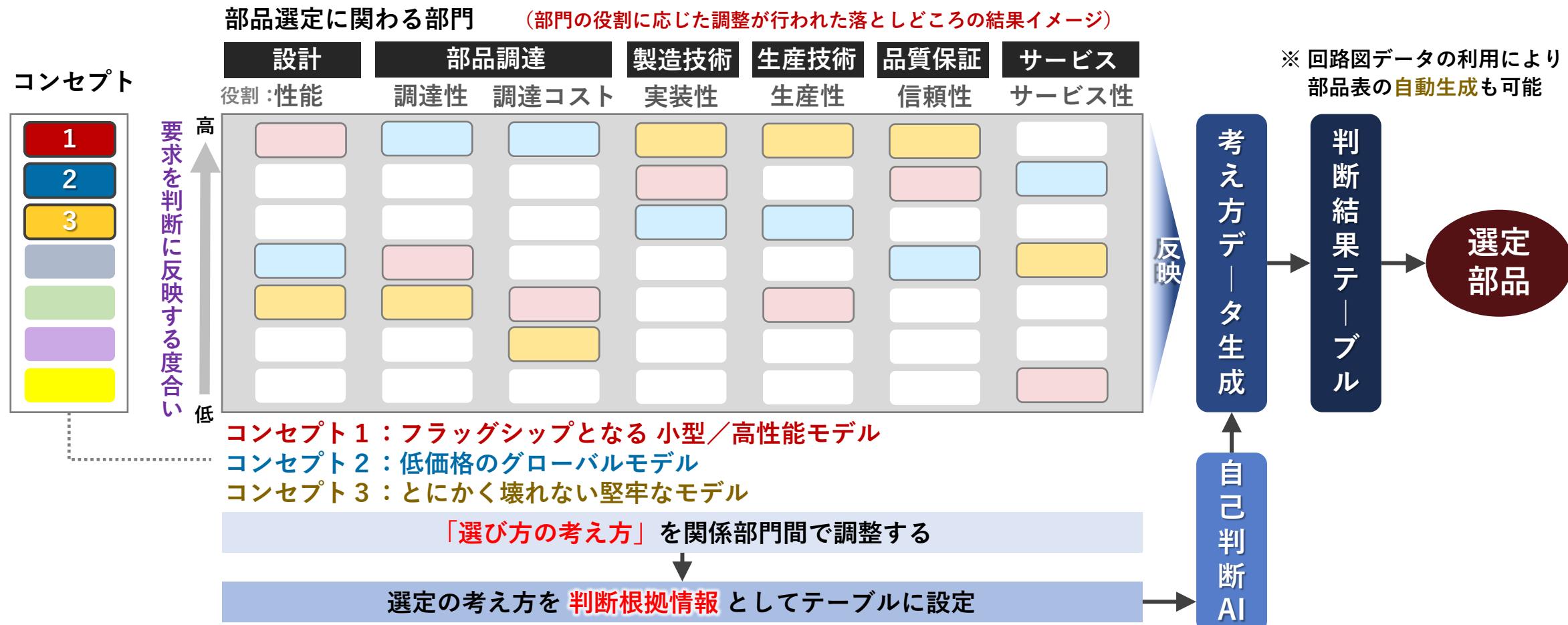


製品コンセプトと役割の異なる関係部門間に生じるトレードオフ状況の調整結果を判断根拠とした自動化（例）



【導入の効果（例）】

- 上流工程の負担を増やすことなく「はじめから全体で最適化された部品の選定」が可能なため手戻りの削減や効率／精度の改革が可能
 - 判断根拠の管理を関連部門扱いとすることで、利用者は技術／規定／運用…等の変化を意識することなく誰もがベテランの知見を活かした成果出力が可能
 - 判断結果の間違いは判断根拠情報の設定ミスか判断結果テーブルの登録ミスにより生じるが、継続的なメンテナンスにより判断精度の高位安定化が図れる